

発掘ニュース

第 14 号

昭和 61 年 11 月 10 日

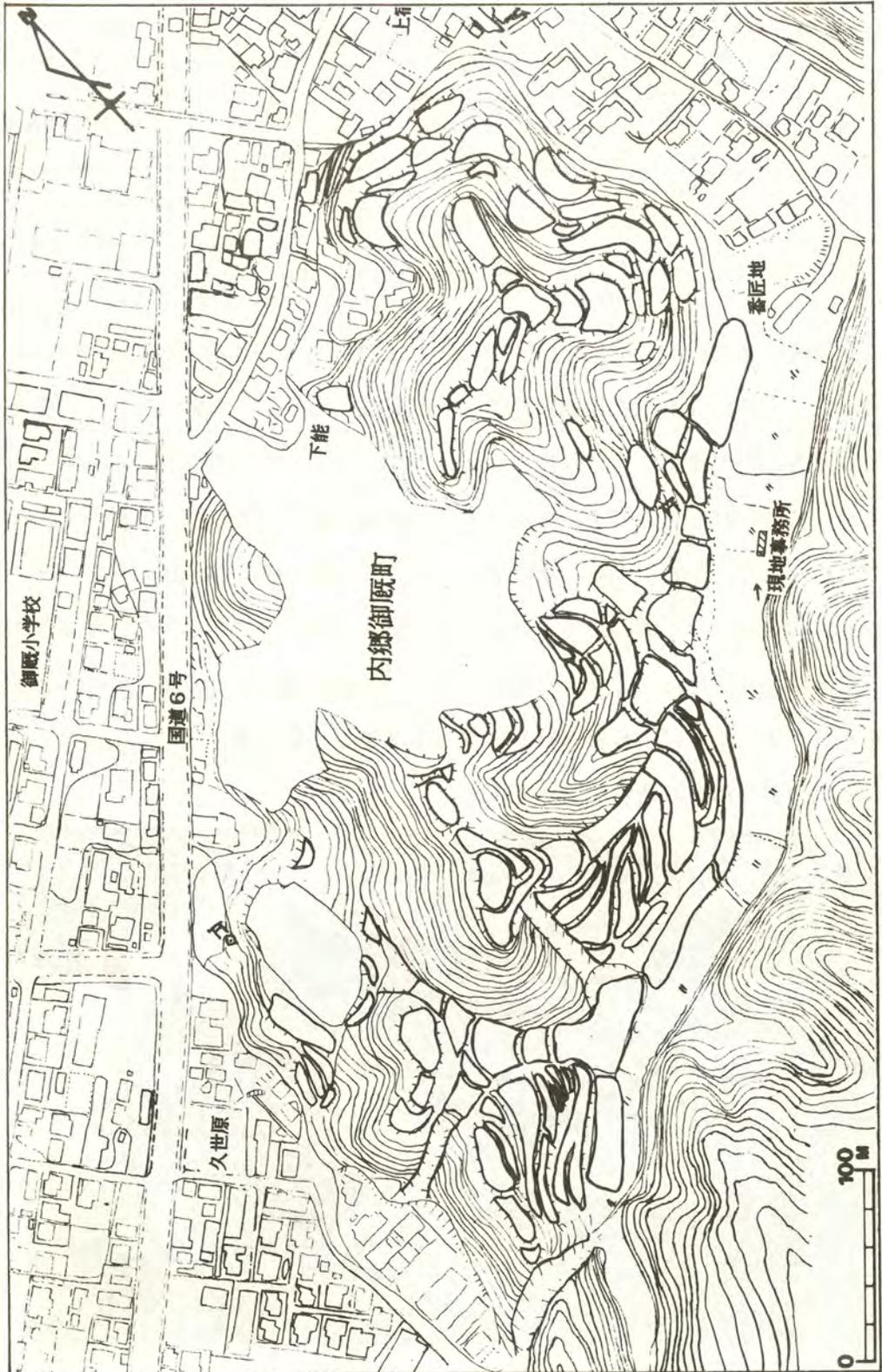
発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

くせはらたて はんじょうちいせき 久世原館・番匠地遺跡

今年度の調査も 11 月で 6 ヶ月をむかえました。この間に今まで市内ではほとんど出土例のない漆塗りの椀や箸、下駄をはじめとする木製品類や中国産を含む多数の陶磁器類が発見されました。これらは鎌倉時代の後半から室町時代にかけて使われたものです。陶器は主に愛知県の瀬戸・美濃系・常滑系の製品で占められています。また、建物跡も多数見つかり、柱の数は昨年を上回っています。このほかに溝の跡が 10 条と径 3～5m ほどの大きな穴も 6 基まともって確認されました。これらの資料は調査が進むに伴いさらに増えるものと予想されます。11 月 16 日（日）には、本遺跡の一般公開を予定しており、市民多数の御来跡をお待ちしております。



第 1 図 発掘調査風景



第2図 久世原館繩張り概念図

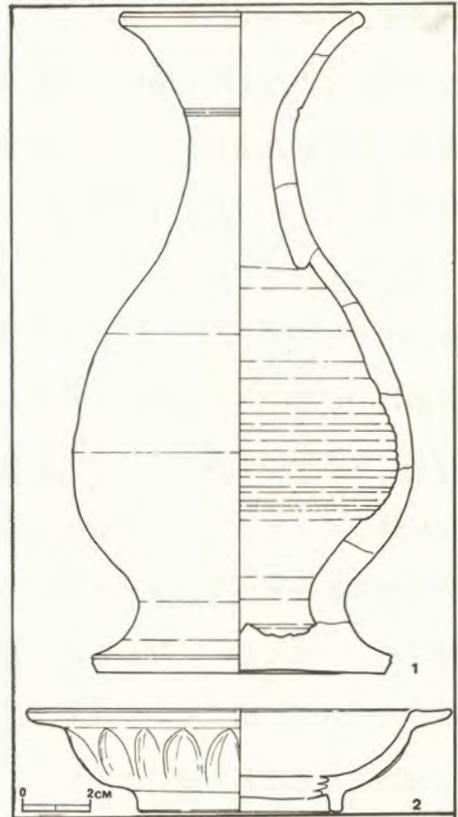
遺構と遺物

第3図と第4図は、陶磁器の出土状況の写真と実測図です。写真の右は、瀬戸焼の底部の資料です。左は、中国製の皿の一部です。底部の資料は、接合できる破片があり、第4図1のような仏華瓶になります。中国製の皿も接合できる破片があり第4図2のような形になります。2つのものは同じ時代に使われていたと考えられます。

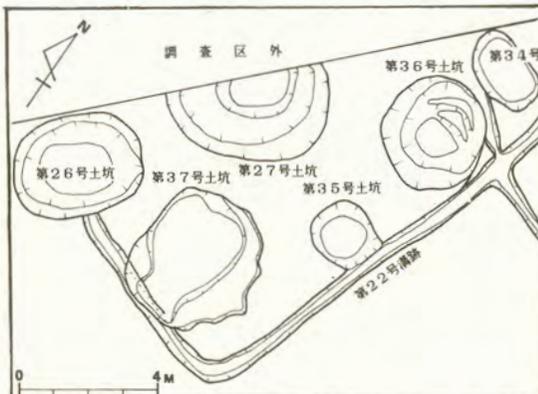
第5図と第6図は、土坑と溝の掘り上がり後の写真と平面実測図です。5個の土坑が、溝で区画された内側に整然と配置されているようにみえます。しかし、調査では、第37号土坑は、溝をこわして作られていることがわかり、第37号土坑は溝が使われていた時代より新しい時代に作られたことが判明しました。



第3図 陶磁器出土状況



第4図 陶磁器実測図



第5図 遺構平面実測図



第6図 遺構完掘写真

作業員の声

私と発掘調査との出会い

今から何年か前の事です、好間の愛谷遺跡で発掘調査をしているらしいということは噂に聞いて知っていました。でも、今の私だったら新聞でどこそで何々が出土した等と、活字の方から目に飛び込んできますが、当時の私は発掘調査とか考古学に全く興味がなく、私には関係のない話だと思っていました。それが、たまたま同じ職場に発掘に詳しい友人がいて、作業員を募集しているからと勧められました。何の予備知識も持たぬまま現場見学に友人と二人で出掛けました。今おもえば測量をしていたようなのですが、その時は山の斜面で「何かしているなあー」という第一印象でした。それが、私と発掘とのそもそもの出会いです。

最初の現場の六ヶ月というのは、調査員の先生方や先輩の足手まといになりながら無我夢中で過ぎてしまったような気がします。それからいくつかの現場を経験してきたのに、いつも頭と気持ちは一年生、時々おかしな物を見せては先生の失笑を買ってしまったたり、土器の名を間違えたりして、先生の目が『何年やっているんだ。』なんて言っている様で自分の勉強不足をしきりに反省している今日この頃です。すべてにこんな人間ですので先生方や皆様には何かとお世話になることと思いますが、これからもよろしく御指導の程お願い致します。最後に事業団の益々の発展と皆様の御健康を祈ってペンを置きます。

－ 現地説明会のお知らせ －

開催日時 昭和61年11月16日(日) 午前10時から

場 所 現地(いわき市内郷御厩町久世原・番匠地) 磐城一高裏
現地事務所 TEL 0246(26)5384

交 通 国鉄平駅から常交バスで内郷方面行「磐城一高前」下車、徒歩5分

編 集 財団法人いわき市教育文化事業団

発 行 昭和61年11月10日

福島県いわき市平字堂根町1-4 いわき市文化センター5階